

進捗状況の概要【1ページ】

東京藝術大学は、本事業の構想に係る取組を、全学が一体となり、“藝大”固有の強み・特色を活かすことにより、独創的・先導的な機動力・展開力をもって、国内外・産学官のネットワークを拡大・強化しつつ連動させながら、芸術の持つ無限の可能性を確信し、これを証明する為に、極めて意欲的に推進している。

平成26年度は、「国際企画課」および「グローバルサポートセンター」の設置や、「卓越教員制度」ならびに「クロス・アポイントメント制度」の構築により、本事業の統括・実施の為に組織とルールを整え、世界の第一線で活躍するアーティストや研究者の誘致促進や国際舞台における実践的な教育プログラムの拡充に向けて、パリ国立高等美術学校・ロンドン芸術大学・シカゴ美術館附属美術大学との「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築の為に連携協定の締結をはじめ、各国の優れた芸術系大学・機関とのパートナーシップを確立し、分野横断型の教員組織「芸術研究院」の創設等による教育研究基盤の統合・再編を含め、グローバル戦略を全学的に推進していく体制を整備した。また、「産学官アニメーション国際シンポジウム2015」や「国際芸術教育会議2015」の開催、「日ASEAN芸術大学ネットワーク」への日本代表校としての参画により「藝大のSGU構想」を一気に発信し、あわせて、「上野『文化の杜』新構想シンポジウム」や「早期教育プロジェクト（以降、毎年度継続）」の実施により、独自色を発揮した。

平成27年度は、美術分野では上述の協定に基づきロンドン芸術大学等と「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実施し、双方で単位化した数カ月間にわたる共同授業として、本学と各連携大学の学生・教員の混成チームが日本とフランス／イギリス／アメリカを行き来しながら調査・制作を行い、越後妻有の芸術祭や香川県高松市の栗林公園等で成果を発表した。音楽分野ではベルリン・フィルハーモニー管弦楽団や英国王室音楽院等から世界的な演奏家を招聘し、学生への個人指導やコンサートでの共演を行った。映像分野では、南カリフォルニア大学等から教員を迎えたほか、韓国・中国・フランスの連携大学との間で、映画やアニメーションの国際共同制作を実施した。また、各国の芸術祭や音楽祭への参加、海外芸術系大学との共同制作・演奏など、教員が専門分野の特色を活かして企画する海外研修型の授業科目「ASAP ; Arts Study Abroad Program」を新たに開設し、本学の寄附金を活用して、参加学生には奨学金が支給される仕組みも整えた。加えて、イタリアのマッテオ・レンツィ首相（当時）やフランス元首相・ナント市名誉市長であるジャン＝マルク・エロー氏による文化交流や文化政策をテーマとした特別講演の開催や、オランダ王国マルク・ルッテ首相との文化財の保存修復や芸術と科学との融合に係る日蘭国際連携体制構築に向けた会談を実施するなど、芸術文化外交を教育研究と絡めつつ展開し、公開シンポジウム「グローバル時代の芸術大学の未来」の開催等も含め、本学の特徴を最大限に活かした取組を推進した。

平成28年度は、「国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻」「美術研究科グローバルアートプラクティス専攻」「音楽研究科オペラ専攻」を設置し、前年度までの取組を継続しつつ、世界各国から多様な人材を招いてワークショップ等を行う「ISIP ; International Specialists Invitation Program」の開始も含め、海外大学との共同カリキュラムや国際的な教育プログラムを拡充した。さらに、「全国芸術系大学コンソーシアム」の創設（平成29年6月現在56大学が参加）により教育研究や芸術活動に係る連携・交流および成果の共有を促進し、また、G7伊勢志摩サミットにおいて本学COI拠点制作の「クローン文化財」を展示して各国首脳に「テロと文化財」について講演を行うなど、本学のプレゼンス・先導力を印象的に示し、向上させた。加えて、国際芸術創造研究科開設記念シンポジウム「芸術文化の創造と大学の未来」や、音楽と科学の共通点を探った「ヨーヨー・マと仲間たちによる討論会」、本学を卒業・修了し各国で活躍する元留學生が集った「Global Homecoming 2016」、各国の在日大使館と連携した展覧会等の開催も、本学のビジョンを広く共有し、国内外の様々なパートナーと相互に協力しながら前進することを確認しあう機会となった。

その他、これまでの事業期間で、国際バカロレア資格や外部英語試験の活用および飛び入学の開始により入試制度を改革し、語学関連では、TOEFL対策科目、英語学習用eラーニングシステム、独語・仏語・伊語のネイティブ講師による特別講座を開講・導入したほか、特別集中講義「Introduce Yourself as an Artist」や「卒業・修了作品の英語タイトル相談会」等の特色ある取組も新たに始め、継続している。全科目のナンバリング、シラバスの英語化・多言語対応、総合キャリア・ポートフォリオシステムの構築も完了し、全学的なチューター配置や教職員の継続的な英語研修等により外国人留學生の支援体制も拡充している。

今後も、芸術系大学に係るブランディングシステムの構築や自己評価および外部評価の継続等により、各種取組・成果を随時検証・点検しながら、本事業における“藝大”の構想を、魅力的な形で実現していく。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

グローバルアート国際共同カリキュラム



パリでの共同ワークショップ



特別名勝 栗林公園での成果発表展覧会

共同カリキュラムの例（平成28年度）

東京藝術大学 × パリ国立高等美術学校

共同授業 in 上野・取手 (10月：2週間) ▶ 共同授業 in パリ・フロア (11-12月：5週間) ▶ 成果発表展 in フロア (12-2月：2カ月)

東京藝術大学 × ロンドン芸術大学

共同授業 in ロンドン (8月：10日間) ▶ 共同授業 in 上野・取手 (8-9月：2週間) ▶ 成果発表展 in 高松 (9-11月：2カ月)

東京藝術大学 × シカゴ美術館附属美術大学

共同授業 in 東京 (8月：10日間) ▶ 共同授業 in シカゴ (8月：2週間) ▶ 成果発表展 in シカゴ (9月：1カ月)

海外一線級アーティストユニットの誘致



海外から招聘した演奏家によるレッスン



アニメーション・ドキュメンタリー、バーチャルリアリティの授業



グローバル社会を切り拓く新研究科・新専攻の設置



国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻



美術研究科グローバルアートプラクティス専攻



音楽研究科オペラ専攻

グローバル・リーダーによる特別講演の開催 | 芸術文化外交の推進



イタリア首相（当時）の特別講演



フランス元首相の特別講演



オランダ首相との会談



G7サミットのサブイベント：テロと文化財

Arts Study Abroad Program



海外における音楽祭への参加、連携大学との共同ワークショップなど



International Specialists Invitation Program



国際的に活躍する多様なスペシャリストによる教育プログラム



早期教育プロジェクト



平成26年度から開始し、これまでに全国各地で20回以上開催



国際会議・シンポジウムの開催



国際芸術教育会議2015



ヨーヨー・マと仲間たちによる討論会

国内大学・機関との連携



JUCA

全国芸術系大学コンソーシアムの設立、上野「文化の杜」新構想など



Global Homecoming 2016



国際芸術創造研究科開設記念シンポジウム